

「三線」は僕の生きがい、パートナー

——貯金を目的に労働意識が変化した和弘さん

鳥取短期大学 國本真吾

全障研・青年期教育全国研究会に、鳥取から私といっしょに参加しているダウン症の青年がいます。二〇〇三年の岡山集会以来、鳥取の参加者はなぜか沖繩音楽の演奏で夜の交流会を盛り上げるのが恒例になっていますが、その輪の中心にいるのが山村和弘さん（二七歳）です。

▼僕も三線が欲しい！

岡山集会では、私が三線を弾き、鳥取の参加者で『島人ぬ宝』という曲を歌いました。交流会が盛り上がる中、和弘さんははじめて触れた世界を眺めるしかありませんでした。しかし、全国から参加した他の仲間に触発されたのか、「僕もいっしょに演奏に参加したい！」という思いが芽生えたようで、交流会が終わると次の大阪集会への参加も早々に決めました。

翌年の大阪集会では、「パーラシーク」という手持ち太鼓で演奏に参加しました。しかし、その夜宿舎に戻ると電話で私を呼び出たのです。翌日の「なかまの分科

会」で、全国の仲間に披露したい。私は他の分科会での発表があるためその事情を説明し、「自分で演奏する」ということで三線を彼に渡しました。

「なかまの分科会」で和弘さんの発表が回ってくると、彼は鳥取からの同行者がいないと弾けないと言いました。その場のスタッフは慌てて会場内をまわり、鳥取から参加していた人を探して、何とか演奏発表を終えられました。その後、和弘さんは「僕も三線が欲しい」と、次の宮城集会までにはお金を貯め、三線を買うことを決めました。

▼はじめての貯金生活

和弘さんは、現在自宅から授産施設に通っています（昨年一二月まではグループホーム生活）。一カ月の賃金は平均して二万円前後。その中から、三線を買うための貯金をしていききました。貯金をはじめたころのことを、母・芳子さんは次のように振り返ります。

「はじめは、私といっしょに（貯金箱へお金を入れることを）やつ

物買ったリフリマ行ってつかう？

〈女性・36歳〉

①一人で ③作業所 ④生活保護で一七万 ⑤多ければ多いほど良いが今の金額では不満である ⑥生活費など

〈男性・51歳〉

①母 ②三〇〇〇円 ③はたけおみそおにぎり ④三〇〇円 ⑤五〇〇〇円 ⑥カット、本、カラオケ

〈男性・49歳〉

①りょうのみんなと ③はつそうのしごと ④四〇〇〇円 ⑤いくらでも ⑥しよくじだい

〈男性・18歳〉

①おかあさんとおねいちゃんふうふ、③はつそう ④三〇〇〇円 ⑤五〇〇〇円 ⑥ないしょ

〈女性・76歳〉

①先生と一緒にいる ②はい ③体のあちこちが痛くてできない ④もらってない ⑤わからねえ ⑥使わねえよ、使えばなくなってしまう

〈男性・66歳〉

①ひとりぐらし ②二万六〇〇

ていましたけど、そのうち自分一人でやるようになりまして」

お金を貯めること自体がはじめての経験でした。自分が欲しいものを買うという明確な目的をもち、グループホームから自宅に戻る度に、数十〜百円単位で貯めていったそうです。三線を購入するために必要な金額は二万円。その間をすこしていききました。

◀宮城集会・閉会全体会でのオンステージ。「ねがい」ハチマキを巻いての大熱演



▼思いを実現させたい

結果として貯まった金額は七〇〇〇円弱。目標金額には届かなかったものの、不足分は年金などから支出して、念願の三線を手に入れることができました。しかし、買って終わりではありません。和弘さんにとっては、自分の三線を持つて青年期集会に参加し、演奏する姿を披露したかったのです。

宮城集会では「なかまの分科会」や夜の交流会で歌や演奏の披露はありましたが、それだけでは納得いかず、準備委員の方に直談判をし、予定になかった閉会全体会でのオンステージを勝ち取ったのです。何よりも三線が弾きたい、その姿を一人でも多くの人に見てほしい、そんな姿を心の中で描きながら貯金をしていたのかもしれない。三線を手に入れることだけが本当の目標ではなく、自分の三線で演奏することが彼の真のねらいだったのです。

▼次の目標は衣装

その後の和弘さんは、音楽に対

して積極的に取り組むようになりました。

昨年の夏、私が所属する「ゆいまる」(鳥取県内で沖縄音楽の演奏活動を行う集団)といっしょに、市内の路上で大観衆を前に演奏を行いました。そのときの自信に満ちた生き生きとした表情。自宅で練習するときには、部屋に家族を誰一人近寄らせないほど夢中になっていました。

「次はお金を貯めて沖縄の衣装を買いたい」

和弘さんの新たな目標は、琉球模様の演奏用衣装です。演奏活動や貯金といった目的があることで、生活や余暇、労働意識に変化が生まれました。また、自分が欲しかった三線を手にしたことで、自分が大好きな音楽のために、何事も一生懸命になっています。

そのような彼の心の変化は、家族や周囲にとって大きな驚きです。三線の購入によって自分の生きがいを見つけただけではなく、三線が今を主体的に生きるための「心の杖」のようになっていっているでしょう。(くにもと しんご)

〇円 ③作業所 ④五六〇〇円
⑤六万円 ⑥タバコ

〈男性・31歳〉

①両親 ③現在していない ④もらってない ⑤月一四万円
⑥昼食代、菓子代

〈男性・22歳〉

①父、母 ②はい ③パソコンで名刺作成、似顔絵を描くこと
④五〇〇〇〜一万円くらい ⑤生活に困らないだけの給料 ⑥ジャグリング道具を買う

〈男性・24歳〉

①かぞく ②はい ③グリーンでやさいをつくっている ④六〇〇〇円 ⑤たくさん ⑥チヨコレートをかう

〈女性・33歳〉

①母と二人 ②一カ月で八万円
③地域作業所 ④一日行くと一五〇円週に二回行っています
⑤難しい 計算するのが弱いから ⑥全障研の会費、本、募金、災害やユニセフなど

〈男性・39歳〉

①お父さんと二人暮らし ③会社の仕事をしています(自動車のぶひん) ④二八万から三二一